

[た よ り]

## 青森県支部だより

——青森県透析医会と青森人工透析研究会の 25 年——

### 鈴木唯司

1978 年 3 月、弘前大学医学部附属病院山本実先生を世話人として第 1 回青森人工透析研究会が開催され、医師、看護師、透析技師など透析に関わる者が一同に会して研鑽を積むこととなった。またこれを機会に青森県内の透析に従事する医師がまとまり青森県透析医会を発足させた。

1981 年より透析医会は正式に規約を制定するとともに、会長と幹事会を置くこととなり、佐々木桂一先生（佐々木泌尿器科病院）が初代会長となり、積極的に会員を増やすとともに、活動を強化することとなった。

1983 年 3 月、本会は都道府県透析医会連合会青森支部となり、その後日本透析医会青森支部となっている。

#### 1 組 織

本会の運営方針は、会長のもと幹事会における幹事の合議で検討され、総会で承認される。幹事は青森県内の各地区より各 1 人ずつ選ばれており、幹事会で会長が推挙されてきた。歴代会長は、佐々木桂一（佐々木泌尿器科病院）、舟生富寿（弘前大学名誉教授・現鷹揚郷腎研究所）、石川惟愛（厚生病院）、佐藤浩平（浩和病院）、木村行雄（十和田泌尿器科医院）各先生（順不同）が各数年間ずつ交替で務めてきている。平成 14 年より鈴木唯司（弘前大学）が務めている。

会は各施設会員よりの年会費により運営されており、青森人工透析研究会の開催のほかに、種々の透析・移植に関わる催しにも協力を行っている。平成 15 年 4

月現在、参加施設数は 31 である。

#### 2 活 動

##### ① 青森人工透析研究会の開催

1978 年 3 月、青森市において第 1 回青森人工透析研究会が開催され、東京女子医科大学太田和夫教授による特別講演「欧米における腎センターの現況」のほか、一般演題 22 題が報告された。以後 1 年に 1 回、幹事が交替で大会会長となり、八戸市、黒石市、五所川原市、弘前市、十和田市、青森市と持ち回りで研究会は開催され、一般演題のほか、県内の演者を中心にした特別講演、シンポジウムなど工夫を重ねている。平成 14 年 6 月、第 26 回研究会は五所川原市で開催されたが、本年度は 6 月 1 日、弘前市で開催される予定である。

##### ② 青森人工透析研究会会誌（Journal of Aomori Society of Dialysis Therapy）の発刊

第 4 回青森人工透析研究会（1981 年）を機に、青森人工透析研究会会誌を発刊している。主に研究会における発表論文の抄録が掲載されている。

##### ③ 青森県臓器移植推進講演会の共催

年 1 回開催される腎移植キャンペーンと講演会を共催しているほか、透析・移植に関係する催しに協賛している。

#### 3 青森県の透析の現況

現在、青森県の透析施設は 36 ヶ所で、透析治療を受けている患者は約 2,400 人、内約 130 人が腎移植

を希望している。腎移植を実施している（又は実施した）施設は鷹揚郷腎研究所弘前病院，八戸平和病院，

八戸市民病院である。今後他県に比して少ない献腎の増加が望まれている。